

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	主要市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	国の交付金を活用し事業を進めるとともに、用地取得済個所については、簡易舗装を行い、歩行者空間を確保する。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	国の交付金を活用し事業を進めるとともに、用地取得済個所については簡易舗装を行い、歩行者空間を確保する。事業債活用のため、市道修繕調査を実施し、修繕計画を策定する。
②①に基づく取組み結果	社会資本整備総合交付金を活用し、用地取得、舗装改良工事を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道	意図(対象をどうするのか)	測量、設計、用地補償、工事を行う。
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要市道における歩道の整備、危険箇所の線形改良、排水整備、舗装改良を実施し、歩行者等の安全と交通の円滑化を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始前は、主要市道でも歩道が無く交通量に見合った幅員や舗装となっていなかった。住民の要望が満足となるよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	主要市道の舗装改良、及び用地取得を実施した。 市道28号線舗装改良工事(L=390m)、市道5号線舗装改良工事(L=193m)、軽井沢周回道路Ⅱ期用地取得(A=46.29㎡)市道22号線用地取得(A=20.77㎡)、市道26号線用地取得(A=411.73㎡)					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 工事延長	1,068	622	583	m	業務取得
	ii 工事延長【平成23年度から累計】	6,794	7,416	7,999	m	業務取得
	iii 「道路の状況」不満足度	-	-	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	81,541	85,501	金額(千円)	内容	209,325	
	国支出金(千円)	35,918	34,490	24,598	市道28号線舗装改良工事	90,000
	県支出金(千円)			11,863	市道5号線舗装改良工事	
	市債その他(千円)	26,400	32,800	10,022	軽井沢用地購入費	93,200
	一般財源(千円)	19,223	18,211	9,289	市道26号線用地購入費	26,125

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	市の主要な道路でも、歩道が無い箇所や狭い箇所が多く、交通量に見合った幅員や舗装構成になっていない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げるため、主要市道の整備は不可欠である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	舗装改良工事、軽井沢周回道路第2期整備事業、用地取得	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	舗装改良工事、軽井沢周回道路第2期整備事業、用地取得	126,728	133,318	当初	126,728	85,501	H29からの繰越	5,639
				H29⇒30繰越	5,697			
③達成状況	未完了			補正			現年分	79,862
				流用・充当	893			
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため。	令和元年度への繰越額(単位:千円)						12,599

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	交差点改良事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	交差点の安全性を早期に向上させるため、工事予定箇所の早期発注を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	交差点の安全性を早期に向上させるため、工事予定箇所の早期発注を行う。
②①に基づく取り組み結果	市道3・4号交差点詳細設計について早期に発注し、用地取得後に工事を発注した。設計委託については工期内に完了したが、工事については支障物件の移設に不測の時間を要し繰越した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	主要市道の交差点	意図(対象をどうするのか)	交差点の改良による安全性の向上・交通渋滞の緩和
②事務事業の概要	安全で快適な道路網整備のため、主要な交差点の右折車線、歩道の整備、交差点形状の改良を行い交通渋滞の緩和、交差点付近の安全性の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	視界が悪く、歩行者が横断待ちするためのスペースの無い危険な交差点や、自動車交通量の増加に伴い、渋滞が発生している交差点がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市道22号線予備設計及び用地測量を実施し境界立会を実施した。市道3・4号線交差点用地取得(A=30.99㎡)。市道3・4号線交差点の詳細設計を完了し、交差点改良工事を発注した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	工事实施箇所(累計)	5	5	5	箇所	業務取得
	ii	「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
	iii						
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	3,370	15,919	金額(千円)	内容	51,803		
国支出金(千円)			1,998	市道22号線交差点予備設計委託	19,745		
県支出金(千円)			6,372	市道22号線交差点用地測量委託			
市債その他(千円)			1,836	市道3・4号線交差点実施設計委託	14,500		
一般財源(千円)	3,370	15,919	2,464	市道3・4号線交差点用地購入	17,558		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	幅員が狭く見通しの悪い市道の交差点が多い。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	交差点改良の要望が多く、市民の安全のため早期に交差点改良を行う必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	市道22号線予備設計、市道3・4号線用地取得及び交差点改良工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	市道22号線予備設計及び用地測量、市道3・4号線詳細設計、用地取得	31,015	30,581	当初	31,015	15,919	H29からの繰越	0
				H29→30繰越			現年分	15,919
③達成状況	未完了			補正				
④未完了・非着手の理由	市道3・4号線交差点改良工事をH31年度に繰越したため	令和元年度への繰越額(単位:千円)		流用・充当	-435			
						11,303		

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	一般市道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業効果の高い一般市道を選定し、効率的に工事を実施する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	事業効果の高い一般市道を選定し、効率的に工事を実施する。
②①に基づく取り組み結果	市道3308号線の冠水対策のため排水整備工事を発注した。市道2107号線の道路予備設計を実施し、道路法第95条の2協議を整え公安委員会に提出した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市道	意図(対象をどうするのか)	安全でゆとりのある道路に整備する。
②事務事業の概要	道路排水施設の整備、舗装新設、狭あい路線の拡幅を行い地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	生活道路となる一般道路が未整備で、舗装整備や道路排水整備の必要がありません。住民の生活環境が向上するよう本事業を推進する。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市道2107号線の道路予備設計を実施し、千葉県公安委員会と道路法第95条の2協議を提出した。 市道2107号線予備設計委託(L=700m)					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 工事延長	625	128	-	m	業務取得
	ii 工事延長【平成23年度から累計】	3,243	3,371	3,371	m	業務取得
	iii 「道路の状況」不満足度	-	-	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	14,307	4,752	金額(千円)	内容	53,252	
	国支出金(千円)		3,888	市道2107号線予備設計委託		
	県支出金(千円)		499	市道3812号線物件調査委託		
	市債その他(千円)	9,900			27,000	
	一般財源(千円)	4,407	4,752		26,252	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路排水施設の未整備箇所、舗装の不良箇所が多い。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	市民意識調査の「道路の状況」不満足度を下げたため、一般市道の整備は不可欠である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	排水整備、予備設計	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	市道2107号線予備設計委託	24,963	24,070	当初	19,000	4,752	H29からの繰越	0
				H29→30繰越				
③達成状況	未完了			補正	5,963		現年分	4,752
④未完了・非着手の理由	市道3308号線排水整備工事はR1年度に繰越したため			流用・充当	-893			
				令和元年度への繰越額(単位:千円)	16,037			

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	私道整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備要綱の改正により、新規舗装だけでなく、補修工事についても対象となったことから、広報等により広く市民に周知していく。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	整備要綱の改正により、新規舗装だけでなく、補修工事についても対象となったことから、広報等により広く市民に周知していく。 申請のあった私道整備工事を早期に発注し利用者の利便性を向上させる。
②①に基づく取り組み結果	改正した整備要綱についてホームページに掲載した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	私道	意図(対象をどうするのか)	舗装整備工事、舗装補修工事を行う。
②事務事業の概要	未舗装私道の舗装及び舗装済み私道の補修を推進し、地域住民の利便性と生活環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	事業開始当初は多くの私道が未舗装で日々の生活や環境・衛生面に悪影響を及ぼしていたが、本事業の推進により未舗装区間が少なくなってきた。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	舗装整備工事を実施した。 整備工事(L=14m)					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 工事延長	355	308	14	m	業務取得
	ii 工事延長【平成23年度から累計】	1,253	1,561	1,575	m	業務取得
	iii 「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	4,843	627	金額(千円)	内容	3,900	
国支出金(千円)			499	舗装整備工事		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	4,843	627			3,900	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	私道舗装整備要綱の見直しを図り、補修工事についても実施することになったことから、この制度を広く市民に周知すること。				
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	2普通	v 総合評価
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	公共性の高い私道もあることから、事業を進めていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	私道組合(舗装整備工事、舗装補修工事)	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	私道組合(舗装整備工事、舗装補修工事)	530	648	当初	530	627	H29からの繰越	0
				補正			現年分	627
③達成状況	完了							
④未完了・非着手の理由								
		令和元年度への繰越額(単位:千円)		0				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	通学路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	2	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	133児童・生徒の健康と安全の確保	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	優先順位を見極めながら、用地取得を進めていく。
②①に基づく取り組み結果	市道1号線の用地取得を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	通学路に指定されている市道	意図(対象をどうするのか)	児童生徒が安全に登下校できるようにする。
②事務事業の概要	児童・生徒が安全に通学できるよう、歩道のない通学路に歩道を整備し、登下校における安全性の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成24年度に実施した緊急合同点検により対策が必要な通学路を抽出し、通学路の拡幅や歩道を確保し登下校時における児童生徒の安全を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	市道1号線に係る物件調査及び不動産鑑定委託を実施した。 市道1号線用地取得(A=670.28㎡)				
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	算定根拠
	i 学校災害件数の割合	6.3	6.0		% 業務取得
	ii 事業費【平成24年度からの累計】	58,939	65,863	127,557	千円 決算書
	iii 工事延長【累計】	115	115	115	m 業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算
事業費(千円)	6,924	61,694	金額(千円)	内容	87,226
国支出金(千円)	1,700	29,793	18,771	市道1号線用地取得	35,375
県支出金(千円)			22,750	市道1号線物件補償	
市債その他(千円)	1,200	21,900	14,504	市道1号線物件調	26,000
一般財源(千円)	4,024	10,001	2,258	用地保全工事	25,851

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	道路の拡幅等中長期的な時間を要する要望に対しては、まずは代替的な対策で対応せざるを得ない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	児童・生徒の通学路の安全性を早期に向上させる必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	市道1号線用地取得、市道49号線予備設計	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	市道1号線物件調査及び不動産鑑定委託、市道49号線予備設計	58,825	113,423	当初	58,825	61,694	H29からの繰越	53,680
				H29⇒30繰越	54,281			
③達成状況	未完了			補正			現年分	8,013
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため			流用・充当	316			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				41,746		

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	整備時期は未定であるが、整備の目安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討を行うことができていない。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修や、上流域の流末としての機能確保のため、50mm/hrの降雨に対応した改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	松戸市主体により実施している、紙敷川改修事業において、2年間の継続費設定とした、L=76.8mのうち、平成30年度分の河川改修工事が完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	主要な水路の暫定改修実施率	6.5	6.5	6.5	%	業務取得
	ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.6	2.6	2.6	%	業務取得
	iii	浸水面積(河川水路)	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	1,482	2,784	金額(千円)	内容	6,260		
国支出金(千円)	0	0	2,784	平成30年度紙敷川改修事業負担金	0		
県支出金(千円)	0	0			0		
市債その他(千円)	0	0			0		
一般財源(千円)	1,482	2,784			6,260		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下流河川の整備の目安がついていないため、50mm/hrの降雨に対応した整備に取り組めていない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	紙敷川改修負担金	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	紙敷川改修負担金	3,573	5,267	当初	3,573	2,784	H29からの繰越	1,694
				H29⇒30繰越	1,694		現年分	1,090
③達成状況	未完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	松戸市事業である紙敷川改修工事はR1へ繰越したため。			流用・充当	0			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				2,424		

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	下流河川の整備が進んできたことにより、上流側でも将来形の整備を行っていく。また、暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来的な整備を考慮したうえで、効果的な手法の検討を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	下流河川の整備が進み、上流域において将来形の整備を実施しているところである。また、浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流下能力の向上と護岸の保護を目的とした暫定改修や、50mm/hrの降雨に対応した改修などの計画策定を行い、上下流の状況を考慮し段階的な河川の改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。下流側の整備が進んでいる場所もあり、市域の河川整備が可能な場所もある。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>準用河川二和川護岸改修(第31期)において、L=15.0mを改修した。</li> <li>準用河川二和川バイパス整備(第2期)工事において、L=42mを整備した。</li> <li>準用河川二和川バイパス整備(第3期)工事において、L=44.8mを整備した。</li> </ul>						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	暫定改修実施率	21.7	21.8	21.9	%	業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.4	11.4	11.4	%	業務取得
	iii	浸水面積(1級河川、準用河川)	81.5	81.5	81.5	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	105,124	366,419	金額(千円)	内容	427,294		
国支出金(千円)	25,000	76,000	11,323	準用河川二和川護岸改修(第31期)工事	106,094		
県支出金(千円)	0	0	102,237	準用河川二和川バイパス整備(第2期)工事	0		
市債その他(千円)	79,103	224,186	110,036	準用河川二和川バイパス整備(第3期)工事	286,199		
一般財源(千円)	1,021	66,233			35,001		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	河川改修は下流から行うのが原則であるため、現時点で最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻りの無いよう実施する必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	浸水被害により、市民の生命・財産に被害が及ぶ恐れがあるため、速やかに河川改修を行う必要性があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	二和川護岸改修(第31期)工事、二和川バイパス整備(第2期)工事、(第3期)工事、(第4期)工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額	決算額				
②計画に対する事業実績	二和川護岸改修(第31期)工事、二和川バイパス整備(第2期)工事、(第3期)工事	256,383	623,907	当初	256,383	366,419	H29からの繰越	344,639
				H29⇒30繰越	367,524			
③達成状況	未完了	256,383	623,907	補正	0	366,419	現年分	21,781
				流用・充当	0			
④未完了・非着手の理由	二和川バイパス整備(第4期)工事はR1へ繰越したため。	令和元年度への繰越額(単位:千円)		105,382				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	〇
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	過年度から進めている浸水箇所の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある場所を選定する。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	過年度から進めている浸水箇所の整備の進捗を図るとともに、最も効果のある場所における整備手法等の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	浸水被害の直接的な原因が地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況の変化により、雨水の流出量が増加し、接続する河川・水路の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬込沢地区排水ポンプ設置工事にて排水ポンプを1箇所設置した。</li> <li>雨水浸透柵設置モニター工事にて雨水浸透柵を15基設置した。</li> </ul>						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	整備工事完了・着手箇所数	21	21	22	箇所	業務取得
	ii	浸水面積(地域排水)	10	10	10	ha	業務取得
	iii	浸透柵設置基数	6,781	6,957	7,196	基	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	28,376	34,090	金額(千円)	内容	160,549		
国支出金(千円)	0	0	10,774	馬込沢地区排水ポンプ設置工事	0		
県支出金(千円)	0	0	720	雨水浸透柵設置モニター工事	0		
市債その他(千円)	14,400	18,900			83,800		
一般財源(千円)	13,976	15,190			76,749		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、放流先の整備状況や費用対効果を考慮し、事業を進める必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	馬込沢地区排水ポンプ設置工事、鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第4期)、東道野辺五丁目地区地域排水整備工事、整地工事、雨水浸透柵モニター工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	馬込沢地区排水ポンプ設置工事、雨水浸透柵モニター工事を完了した。	83,187	109,487	当初	83,187	34,090	H29からの繰越	11,202
				H29⇒30繰越	11,202			
③達成状況	未完了	83,187	109,487	補正	15,120	34,090	現年分	22,888
				流用・充当	-22			
④未完了・非着手の理由	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第4期)、東道野辺五丁目地区地域排水整備工事、整地工事はR1へ繰越したため。	令和元年度への繰越額(単位:千円)		71,899				



令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	〇
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	過年度から進めている貯留池の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	最も効果のある場所における貯留池整備に向け、土地の取得を行う。
②①に基づく取り組み結果	過年度から進めている貯留池整備について、進捗を図り工事を完了させた。また、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行い、今年度より新たな箇所の事業に着手することとした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図(対象をどうするのか)	河川の流量の調整を行う 雨水の流出を抑制する
②事務事業の概要	浸水被害を軽減するために必要な、河川調節池の整備と流出抑制を目的とした調節池の整備を行う。整備にあたっては、河川の整備計画との整合を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる、依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	南初富二丁目貯留池整備工事(継続費)において、貯留池V=1, 100m3を整備した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	河川調節池の暫定整備率	85.7	85.7	87.5	%	業務取得
	ii	河川調節池の整備率	57.1	57.1	57.1	%	業務取得
	iii	貯留量	40,421	40,421	41,521	m3	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	5,792	126,968	金額(千円)	内容	53,684		
国支出金(千円)	0	0	126,831	南初富二丁目貯留池整備工事	0		
県支出金(千円)	0	0			0		
市債その他(千円)	1,300	95,100			38,100		
一般財源(千円)	4,492	31,868			15,584		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	放流先の河川整備が進まない中で、浸水被害の軽減を図るため、雨水貯留地を整備することが最善の治水対策と考えられるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	南初富二丁目貯留池整備工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	南初富二丁目貯留池整備工事が完了した。	89,600	129,622	当初	89,600	126,968	H29からの繰越	40,000
				H29⇒30繰越	40,000		現年分	86,968
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	-			流用・充当	22			
				令和元年度への繰越額(単位:千円)			0	

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市計画道路3・4・5号船橋我孫子バイパス線整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	用地に関する情報について、千葉県と情報共有を図りながら、効率的に用地取得を進める。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	用地に関する情報について、千葉県と情報共有を図りながら、効率的に用地取得を進める。
②①に基づく取り組み結果	事業主体である千葉県と連携を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・5号線	意図(対象をどうするのか)	整備することで交通の利便性を向上させる。
②事務事業の概要	市、南北の交通の円滑化と周辺地域の利便性の向上を図るため、県道船橋我孫子線のバイパスとして県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	南初富区間から新鎌ヶ谷地区まで供用開始したことにより、県道船橋我孫子線のバイパスとしての機能を発揮することが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	都市計画道路3・4・5号線の物件調査委託及び用地を取得した。会社による買戻し。(A=538㎡)						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	284	7,146	金額(千円)	内容	4,643		
国支出金(千円)			7,146	市町村負担金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)		3,000			1,400		
一般財源(千円)	284	4,146			3,243		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	境界が未確定の箇所があり、確定させる必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	機能的な道路ネットワークの構築や利用者の利便性・安全性の向上を図るべく道路の完成を目指す必要性があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	地元負担金	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	地元負担金支出	11,169	11,169	当初	1,000	7,146	H29からの繰越	0
				H29→30繰越			現年分	7,146
③達成状況	未完了			補正	10,169			
④未完了・非着手の理由	事業主体である千葉県が繰越したため			流用・充当				
		令和元年度への繰越額(単位:千円)					3,643	

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	322利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	全線高架化に向け、関係機関との調整を密にしながら事業を進める。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	全線高架化に向け、関係機関との調整を密にしながら事業を進める。
②①に基づく取り組み結果	関係機関と調整を密にしながら事業の進捗を図った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関と調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を実施する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線の踏切遮断により交通渋滞が発生していることから、安全性、快適性のため踏切を早く除却する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	令和元年度全線高架化に向け、高架橋、駅舎、軌道、電気工事を実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	%	業務取得
	ii	事業進捗率(事業費ベース)	72	78	86	%	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	513,558	529,124	金額(千円)	内容	691,763		
国支出金(千円)			529,125	県事業への負担金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)	413,500	488,400			620,800		
一般財源(千円)	100,058	40,725			70,963		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	踏切による交通渋滞が多く、市街地が分断されている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市内道路の渋滞解消に向け、早期完成が必要であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	負担金	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	684,406	828,646	当初	566,619	529,124	H29からの繰越	139,831
				H29⇒30繰越	144,246		現年分	389,293
③達成状況	未完了							
④未完了・非着手の理由	事業主体である千葉県が繰越したため。	令和元年度への繰越額(単位:千円)		291,244				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	都市計画道路3・4・10号中沢北初富線整備事業(中沢)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗に支障とならないように用地取得を進める。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	千葉県と用地交換のための協議を行う。
②①に基づく取り組み結果	用地取得に係る物件調査及び不動産鑑定委託を実施し用地取得した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・4・10号線	意図(対象をどうするのか)	県と打合せを実施する。
②事務事業の概要	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗に合わせ、都市計画道路の整備を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	本市の中心部から市川への主要な道路として、当該都市計画道路の整備を一級河川大柏川第二調節池整備事業に合わせ一体的に事業を進めていく。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	用地を取得した。(A=498.91㎡)						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	1,197	27,562	金額(千円)	内容	0		
国支出金(千円)			24,167	用地購入費			
県支出金(千円)			2,572	物件補償			
市債その他(千円)			824	永久標及び登記事務			
一般財源(千円)	1,197	27,562			0		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	一級河川大柏川第二調節池整備事業との整備計画の整合を図ること。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	一級河川大柏川第二調節池整備事業の進捗状況と合わせ周辺の一体的な整備が必要である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	用地取得	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	用地取得(A=498.91㎡)	0	28,778	当初	27,562	H29からの繰越	27,562
				H29⇒30繰越		28,778	現年分
③達成状況	完了						
④未完了・非着手の理由		令和元年度への繰越額(単位:千円) 0					

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新鎌ヶ谷西側地区都市計画道路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	32都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	321安全でゆとりある道路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	事業推進のため、より多くの交付金を活用できるよう、関係機関との連携強化を図る。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	事業推進のため、より多くの交付金を活用できるよう、関係機関との連携強化を図る。
②①に基づく取り組み結果	交付金を導入し、用地取得を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	都市計画道路3・3・16号線、都市計画道路3・4・10号線	意図(対象をどうするのか)	用地取得を行う。
②事務事業の概要	当該都市計画道路の整備により、新鎌ヶ谷地区内に発生する集中交通を円滑に処理する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業により交通の発生集中が生じていることから、平成25年度から本事業を開始した。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	物件補償及び用地取得を実施した。(A=123.48m <sup>2</sup> )						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	都市計画道路整備延長	12,169	12,169	12,169	m	業務取得
	ii	都市計画道路整備率	33	33	33	%	業務取得
	iii	「道路の状況」不満足度	—	—	65.7	%	市民意識調査
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	81,577	51,922	金額(千円)	内容	155,234		
国支出金(千円)	43,006	24,034	31,281	物件補償費	75,477		
県支出金(千円)			16,827	用地購入費			
市債その他(千円)	30,500	21,500			66,800		
一般財源(千円)	8,071	6,388			12,957		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	当該都市計画道路は東西にアクセスする道路がないため、早期に事業を進めていく必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市内中心部の交通を円滑に処理し、道路利用者の安全性や利便性の向上を早急に図る必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	用地取得	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	用地取得、物件調査	102,169	115,330	当初	102,169	51,922	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越	13,161		現年分	51,922
③達成状況	未完了			補正				
④未完了・非着手の理由	用地取得に係る業務が年度内に完了しなかったため			流用・充当				
		令和元年度への繰越額(単位:千円)		55,234				